

謹賀新年！



広報

わかさ

2014.01 No.105



T a y u i



少女たちの浦安の舞がはじまる。少しけむっていた山が次第に現れ、太陽が顔を出す。
早朝に氏子たちが立てたのぼりが風にはためき青空に映える。氏子だけの、静かな静かな冬のまつり。
今日、12月1日は多由比神社新穀祭。



新 穀 感 謝 祭



梅 も 奉 納

この新穀祭(新穀感謝祭)は、稲作を中心とした感謝祭ですが、数年前からこの地域の特産品である梅干しも奉納するようになりました。

梅はこの辺りでは米に次ぐ主要産物。6月、梅の収穫が始まって間もない時期には青梅の奉納もしているそうです。

「^{にいなめさい}多由比神社は春まつりが有名やけど、本来は今日の新穀祭は一番大切な行事なんよ」直会^{なおらい}の後、田井野区の方にお話を聞きました。

「どっちか言うたら、うちの神社は地味です。4月18日の春まつりでは、御神体を御旅所のある松の浜へ運んで、舞などを奉納するんですが、こういうのは近辺を探してもあんまり無いと思います」

神 さん の お 宿

現在は、成出、伊良積、世久津、田立、梅ヶ原、田井野の6集落で1年ごとに当屋区を回しています。引き継ぎは4月19日。

当屋区はその1年間、神社の祭事やお供えなどの経費を負担します。

当屋区の中からは「当屋」という家を1軒決めます。その家は、「神さんのお宿」となり、お供え物の段取りなどを行います。当屋になるというのはとても誇らしいこと。

「当屋になったら“神にお仕えする”ということになるので、1年間ひたすら神社を掃除します。そしたら神さんに対する接し方もだんだんと変わってきます。昔はみんな貧しかったから、一番の献身は清掃やったんです。

根本は、心やわね。物やお金じゃなくて、神さんへ尽くすっていう心さえ現れとれば、はた目から見たら綺麗なんや」

神 社 と と も に



みなさんの神社への思いをお聞きました。

「確かに氏子も少なく維持管理も大変なんやけど、この神社は格式も高く 1300 年の歴史があるんです。それが私らの救いです」

「うちだけじゃなく、他の神社さんもみんなそうやと思うんですけど…」と、続ける赤尾さん。

「幸い、今んところこうやって継承していけてますけど、これからが大変になろうかって時代に入ってくるねえ。平成生まれの人たちに昭和生まれの考え方をどのように引き継いでいくかっていうのが、一番の課題やねえ」

氏神の祭事や維持はお金を払って誰かにしてもらえるものではなく、氏子が自分で参加して行く中で自然と身につけていくもの。

「昔は、あれせーこれせーって若いものに教えとれば継続できた。今の人みんな会社などの組織で働いていて、それが生活のベースになっとなるから、それを壊してまで祀らなアカんのか、と…難しい問題です」

かつては、田んぼ仕事も神社も同じ生活のベースの中にあり、田んぼを休んでお宮さんの事をすることができました。

「今は、とにかく背中を見せるようにしています。田井野は恵まれてて、関心を持ってくれる若い人も多いで、ありがたいんです」

みなさんの言葉のひとつひとつから、氏子であるという誇りと、神さまにお仕えする心を繋いでいくという使命感を強く感じました。



話をうかがった方
(写真左より)

田井野区長代理	市原哲夫さん
田井野区当屋	大下善己さん
田井野区総代	赤尾光永さん

新年のごあいさつ

平成 26 年新年号にあたり、ご挨拶させていただきます。日頃は町行政へのご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、平成 25 年を振り返りますと「激動の一年」であったと感じております。

9 月に発生しました台風 18 号は、町内一円に甚大な被害をもたらしました。被災されました町民の皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、復旧作業にご尽力いただきました町民の皆さま、関係機関の皆さまに厚くお礼申し上げます。

復旧、復興には多くの時間、労力が必要ですが、町民一丸となって「若狭町再興」にむけ着実に歩んでいるところでございます。



また、私事ではございますが 5 月の町長及び町議会議員の改選により、新体制で 2 期目の町政をスタートさせていただきました。町議会議員の皆さまとともに、若狭町発展に向け全力で取り組んでまいりますので、今後ともより一層のご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

平成 26 年は若狭町が誕生して 10 年の節目を迎える年となります。町では一年を通して様々な記念行事を開催させていただき計画をしております。ぜひ、多くの皆さまにご参加いただき、10 周年を共に祝いしたいと思っております。

町民の皆さまのこの一年のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、平成 26 年が素晴らしい一年となりますよう祈念いたしましてご挨拶いたします。

若狭町長 森下 裕

CHECK THE MOVIE!!



- ① スマートフォンやタブレットで「junaio」アプリをダウンロード！
- ② アプリを開き、QRコードをスキャン！
- ③ 表紙の一番上の写真にかざす！すると…！？

写真が動き出す！？
これはAR（拡張現実）という技術を使った試みです。
一度ためしてみてください！

頭と体を使って

11月6日、B&G海洋センターで、三十三地区老人クラブと三十三公民館共催の、健康づくりを目的にした輪投げ大会が開かれました。

9本の棒がマス目上に並んだ台に1～9の数字が書いてあり、輪が入ったところの数字を足して競うものです。“縦・横・斜めの一行が揃うと、合計の15が2倍になる”というルールがあり、参加者は、輪投げで一生懸命になりながらも計算で頭を使うという競技に四苦八苦している様子でした。

終了後は「笑いヨガ」を行い、会場には楽しい笑い声が響いていました。



Photo:Yukiko Shikata



さあステージへ♪

11月8日、「第9回若狭町小中学校音楽会」がパレア若狭で開催され、町内の全小学校11校と中学校2校の吹奏楽部、計300人以上が出演しました。

学校ごとの規模や特色に合わせた合唱や合奏が発表されました。

子どもたちは、みんな一曲一曲を精一杯演奏していました。どの曲もととても丁寧に仕上げてあったのが印象的でした。(文：小林容子)



風と歴史を感じて

11月8日、若狭三方縄文博物館で「年縞^{ねんこう}学習会」が開かれ、若狭高校と美方高校の生徒が参加しました。これは地元の高校生に、水月湖の年縞について理解を深めてもらうため、スーパーサイエンスハイスクール事業の一環として行われたものです。

生徒らはクルーズ船で年縞の採取現場である水月湖上を視察した後、縄文博物館で小島学芸員による解説を受けました。

講義の後には、森下町長と語る「ゆうトーク」の時間も設けられ、生徒らは若狭町と年縞について理解を深めました。



リフレッシュしました

三宅小学校体育館の耐震リフレッシュ工事が終了したことから、11月9日、地元の三世代交流実行委員会や地域づくり協議会などによる感謝祭が開催されました。

感謝祭では、笑福亭鶴二氏の落語独演会や、児童の音楽発表、開場前から長蛇の列となったリサイクルバザー、ブース店によるふるまいなどが行われました。

会場前、児童らは体育館で手作りのおもちやを並べるなど楽しそうに準備をしていました。

参加者は、新しくなった体育館での催しを満喫している様子でした。



大 切 な 再 確 認

11月10日、野木地区地域づくり協議会防災・安全部会が主催の、地区住民全員を対象にした野木自主防災訓練が行われました。

今回は台風18号での対応を教訓に、各集落の状況収集、安否確認などを主に取り上げ、集落防災組織の役割・連絡体制の確認を行い、災害の時に自分がどのような行動をするかを再確認する機会となりました。その後、三角巾を使った救急訓練が行われ、老若男女、皆、真剣に取り組んでいて、意識の高さを感じました。

参加者からは、身近に大きな災害を受けた今だからこそこういった訓練が大切で、毎年少しずつでも行くと良いという声も聞くことが出来ました。（文：橋本幸美）



古 墳 を 駆 け 抜 ける

11月10日、第5回古墳の里リレーマラソンが開催されました。これは42.195kmをタスキを繋いでチームで走る大会です。今年は14チームが出場し、参加選手は約220人でした。

当日は雨が降ったりやんだりの肌寒い天候でしたが、選手たちは力強くスタートを切りました。

大会の拠点となった瓜生小学校では、選手から選手へとタスキが渡されるたびに、大きな拍手と声援が起こりました。コースとなった脇袋では、集落の人たちがコース沿いで声援を送っていました。

〈優勝〉

一般の部…若狭東高校陸上部

小学校、小学生・一般混成の部…鳥羽小学校ハイスピード



肩をトントントン

西浦地区地域づくり協議会が主催した「子どもとおじいちゃんおばあちゃんとの交流会」が、11月15日、岬保育園で行われました。

小規模多機能ホーム「みさき」の利用者が見守る中、岬保育園児と梅の里保育園年長組の園児とが、協議会の役員たちに教えてもらいながら竹トンボや紙鉄砲作り、餅つきなどを楽しみました。ついた餅が入ったぜんざいを楽しんだ後は、園児が歌を歌い、ホーム利用者の肩たたきをしました。

利用者は笑顔で子どもたちを見つめ、涙ぐむ姿も見られました。晩秋の寒い日でしたが、保育園の中では暖かな交流が行われました。



笑いとともに考える

11月23日、若狭町女性ネットワーク主催の男女共同参画講演会がパレアにて開催されました。

講師の落語家笑福亭松枝さんは、飲んだくれ亭主とおかみさんの人情噺の落語を織り交ぜながら、「女性は人生を前のめりに生き、その時々で幸せを見つけられるので長生き出来ます。ですが、男性がつくったこの世の中、女性には使い勝手が悪く、生きにくく来ています。ですから皆さん、どんどん社会に参画しましょう」と話されました。

男性も参加されていた会場には、終始笑い声が響き、楽しい講演会となりました。（文：大久保雅子）



Photo:Yukiko Shikata

楽しい秋の一日

毎年恒例の三十三公民館主催の秋祭りは、11月24日、地区の人たちが力を合わせて準備し、今年も盛大に行われました。

おでんの香りが充満したB&G海洋センターの玄関を入り、体育館の入り口で思わず足が止まりました。広い体育館を埋めつくす、人、人、人。目に飛び込んできた大勢の人出に、唖然としました。ふるまわれた豚汁やぜんざいを食べる人、子どもの遊びコーナーで目を輝かせる子どもたち。バルーンアートに集まる親子。フリーマーケットの人だかり。手芸や絵画などの展示物に見入る人。

秋のひとつきを地区の人たちが一緒に過ごす、素晴らしい一日となりました。



ネギもおいしいで～

11月24日、梅の里ふれあい市が西田公民館前広場で開催されました。

今回で2回目の開催となった、このふれあい市。公民館前の広場には、軽トラの荷台を利用した屋台などが集合しました。イカや貝などの新鮮な海産物や、地元産の野菜、梅などの特産品が所狭しと並び、また焼き鳥や古本の屋台もありました。

広場には呼び込みの声が響き活気のある雰囲気の中、朝から多くの観光客や地元の人々が市を訪れ、出店者との会話や買い物を楽しんでいました。



ほ ～ た る 来 い

「若狭町みんなでつくる原材料支給事業」を活用した「もちだビオトープほたるの里」が、11月23日に完成しました。

持田集落センターから少し歩いた山際に、昔から「しょうず」と呼ばれて親しまれてきた湧水の池があります。

持田区は、ここを集落の人たちの世代間交流の場にしようと、約1か月をかけて整備してきました。

老人クラブや壮年会が主に作業をし、整備に使った石や樹木は区民から提供されたものもあり、看板は子どもたちが描くなど、この整備自体が世代を超えた交流となりました。

竣工を迎えたこの日は、朝から住民総出でツツジを植えるなど最後の整備を行い、昼前には竣工式典を行い、新たな交流の場としての第一歩を刻みました。



子どもたちに特産品を

11月25日、町内の特産品を保育園給食にも活用してもらおうと産業課が企画した料理講習会が、中央公民館で行われました。保育園の調理員と園長ら20人が、青池調理師専門学校の松坂隆寛先生から調理方法を学びました。

黒豆は炒って使うと味がしみやすくなる。果肉を取った梅干の種を水につけて洗い、その水を使って米を炊くなど、ちょっとした工夫が素材を生かすことになるなどアドバイスを受けました。

給食では通常行わないブランデーを使ったフランベなどは、火から逃げたりしながら、にこやかな雰囲気の中にも、調理員らしい手際の良い調理実習となりました。

鹿肉のハンバーグは臭みもなく、ミンチにする作業をどこが行うかなど、今後に向けて課題も話し合われました。



大豆からつくってみよう

11月21日、熊川小学校の1、2年生7人が、パレア若狭のキッチンスタジオで豆腐づくりを体験しました。

豆腐づくりに使った大豆は、児童たちが6月に校庭の脇にある畑に種を蒔き、10月中旬に収穫したものです。

豆腐づくりは相田の河村信子さんに教えてもらいました。ふやかした大豆が大きくなっていることに驚いたり、ミキサーにかけた大豆を温める匂いが「ビミョー」などと、見るもの触れるものに声を上げながら作業を進めていきました。

出来上がった豆腐は、何もかけずに食べても「おいしい！」と好評でした。（同行取材：竹内洋子）



特産品を未来へ

11月27日、美方高校食物科1年生の30人が、町内の特産品の生産現場や加工施設などを見学しました。

この見学会は、調理に携わる職業を目指す高校生が、地元の特産品を知り利用につなげていく過程の第一段階として、学校と産業課が連携して昨年から行っているものです。

生徒たちは、梅の里会館では梅干、エコファームの梅酒工場では梅酒と梅の実、山内集落では山内かぶらを、説明を受けたり試食するなどしながら特産品の特徴を学びました。今後、進級とともに調理技術を習得し、特産品の利用方法などを考えていきたいと話し、試食したもののレシピを聞いたり、賑やかな会話の中に熱心さが感じられました。（同行取材：土坂幸江）



そっとやさしい歌声

12月1日、「若狭町青少年健全育成のつどい」が中央公民館で開催されました。

家庭の日啓発作文コンクールの表彰の後、入賞者による作文の発表が行われました。

その後、長島りょうがん氏による「そっとやさしく～結～」をテーマにしたトークライブが始まりました。中学校の教師である長島氏は、生徒とその家族とのエピソードを交えながら、近くで支えてくれている人に感謝の気持ちを持つことの大切さや難しさなどを、引き語りの演奏を挟みながら話されました。会場には、ハンカチで涙をぬぐう参加者の姿も見られました。



01



02



Photo:Yukiko Shikata

03



Photo:Michiko Ueno

04



05



06



07



- ア ラ カ ル ト -

01. 梅の里地域づくり講演会
@西田公民館 (11/8)
02. 瓜生小学校スローガン設置披露会 & 人権講演会
@瓜生小学校 (11/14)
03. みかたあきんど落語会
@レピア (11/14)
04. 若狭町 PTA 連合会ソフト
バレーボール大会
@三方体育館 (11/24)
05. 秋の熊川宿収穫祭
@道の駅若狭熊川宿
(11/24)
06. 今川裕代ピアノコンサート@野木小学校 (11/22)
07. 若狭町文化祭
@パレア若狭 (11/2,3)
08. 地域づくり団体全国研修
交流会福井大会
@熊川宿 (11/17)
09. 美方高校魚さばき教室
@みそみ小学校 (11/19)
10. 美方高校魚さばき教室
@気山小学校 (11/26)
11. 三線コンサート
@三方中学校 (11/18)
12. 拉致・特定失踪者問題の
早期解決を願う福井県集
会@越前市 越前たけふ農
協会館 (11/23)
13. かみなか農楽舎収穫祭
@かみなか農楽舎 (11/10)
14. 体協長杯バレーボール大
会@三方大体育館 (12/1)

住民リポーターさんたちの似顔絵：岡本サキン

08



09



10



Photo:Junji Takenaka

11



12



13



14



田んぼや畑を数珠つなぎ ー田んぼや畑、自慢しますー

堤 光治 さん（田名・70歳）

「二州大根を作っています。今は収穫中です。生産者を増やして、三方の特産にしていければと思っています」



なしたええんや ーわたしのオススメ、教えますー

辻本よしえさん(91歳)・塚本しず江さん(88歳)・田中愛子さん(92歳)

「“玉置おたのしみ会”という、みなでおしゃべりする集まりを月に1回開いています。もう20年になります。この3人は大の仲良しで、家族のような存在です」(玉置)



こちらのページでは若狭町にお住まいのみなさんをご紹介します。掲載を希望の方は、お気軽にご連絡ください！

NPO わかさ Reco. Tel : 050-3701-8341 Fax : 050-3730-7496

文 芸 ひ ろ ば

へ若狭膳俳句会へ

右ひだり紅葉もみじの川下り
枯葉舞ふフランス名画観る帰り

へ五湖俳句会へ

放牧の牛広々と秋を鳴く
赤とんぼ風の階段登りけり

へかをり歌会へ

台風の当たり年の申し子か
柿のすずなり秋をいろどる

古への式の随に成りにける
新の御殿厳かに建つ

へ上中短歌会へ

御仏に三代並びてしめやかに
妻の導師で念仏唱う

妻と二人天城トンネルを散策し

伊豆の踊り子の気分になりぬ

へ川柳湖畔へ

難問が解けて歩幅が広くなる

宅配便開くと土の匂いする

へほつと川柳へ

宇宙から被災見舞いの大すい星

あんたがたどこさ子供等皆んな宇宙の子

へ若狭町冠句の会へ

活気づく道一本で世が変わる
土臭い誇れる人の背光る

内藤美子(安賀里)

杉谷幸一郎(脇袋)

大崎昌子(相田)

山形昭鳳(南前川)

中西友信(向笠)

須磨悌(気山)

鹿野公夫(仮屋)

鹿野公夫(仮屋)

「傘寿 人生は旅」より

山田和枝(倉見)

岡本通子(日笠)

前田初美(三宅)

福田真由美(武生)

池上梅溪(三田)

河原敦子(向笠)